

MIMOPIA



中村学園女子中学・高等学校図書館情報 第229号

目次

- ・ 読書のススメ
永松 妙子先生・・・・・・・・・・・・ p.1
- ・ 新着案内・・・・・・・・・・・・ p.2
- ・ 特集 テーマ「冬と言えば」・・・・ p.3
- ・ インフォメーション・・・・・・・・ p.6



読書のススメ

先生方にも、お薦めの本や思い出の本、読書に関するいろいろなエピソードなどを語っていただきます！（敬称略）



We Can Make a Difference

英語科 永松 妙子

SDGs = Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標。2015年に国連サミットで採択され、2030年までに世界全体で達成しようとしている目標です。最近ではそのSDGsが一種のトレンドであるかのようにテレビ番組でも取り上げられ、あらゆる場面で頻繁に目にするようになってきています。

私がSDGsに出会い、それについて学ぶようになったのはグループラスを担当するようになってからのことです。それ以前は世界には様々な問題があることは頭でわかっていることも、自分のこととして考えることはほとんどなく、まして自分ができることがあるなど意識したことありませんでした。しかし、SDGsを知ると、清潔な水、整った医療、学校教育など私たちが当たり前に感じているものは決して当たり前ではなく、私たちがどれだけ恵まれているかを感じずにはいられません。また、私たちの便利な暮らしが自然環境や遠い国の誰かの犠牲で成り立っている現実を突きつけられます。実際に、私たちがこれまでのペースで消費活動を続けるためには地球が3個必要だとか、100年以内に地球に任せなくなってしまうと言われています。さて前置きが長くなりましたが、私が今回皆さんにお薦めする本は

『ムズカシそうなSDGsのことがひと目でやさしくわかる本』（小学館・本田亮著）です。

この本では、SDGsの具体的な17個の目標をイラストやデータ、体験談を交えてわかりやすく解説してあります。まずはSDGsについて「知る」ことで今まで見えなかったものが見えるようになります。見えるようになる「考える」ようになり、やがて「行動」につながります。本の中には、私たちが暮らしている中でSDGsに貢献できる具体的な行動もたくさん挙げてありますので、案外自分にもできることがあることに気づくことができます。

この本は各クラスに一冊ずつ置いてあるのと、図書館にもありますので、ぜひ読んでみてください。SDGsをただのトレンドにすることなく、私たち一人ひとりが行動を少し変えることで、地球上の誰ひとりとして取り残さないように目標達成を目指しましょう。We can make a difference!

ご紹介いただいた本

『ムズカシそうなSDGsのことがひと目でやさしくわかる本』

本田亮 著/小学館 請求記号:519/H 蔵書番号:8115316

所蔵あり



11月・12月の新着案内(の一部をご紹介)

「らんたん」
柚木麻子 著
913.6/YU
70191585

「東京2020オリンピック
ピック公式記録集」
KADOKAWA 出版
780.6/T
70191295

「くらしのアナキズム」
松村圭一郎 著
309.7/M
70191615

「レフトハンド・プラ
ザーフード」上・下
知念実希人 著
913.6/TI
78115514
78115521

「星を掬う」
町田そのこ 著
913.6/MA
70191325

「むかしむかしあると
ころに、やっぱり死体
がありました。」
青柳碧人 著
913.6/A
70191325

「解きたくなる数学」
佐藤雅彦 著
410/T
70191646

「世界を食べよう! 東
京外国語大学の世界料
理」
沼野恭子 編
309.7/M
70191615

「54字の物語」
氏田雄介 著
913.6/U
70191363

「アイの歌声を聴かせ
て」
吉浦康裕 原作
乙野四方字 著
913.6/O
78115545

「闇祓」
辻村深月 著
913.6/TU
70192148

「米澤屋書店」
米澤穂信 著
902.3/YO
70192179

「日本アイスクロニク
ル」
アイスマン福留 著
Coming soon

「100万回死んだねこ
: 覚え違いタイトル集」
福井県立図書館 編著
Coming soon

「明日へつながる5つ
の物語」
あさのあつこ 他 著
Coming soon





星をつなぐ手

2年1組 西崎好香

この本は「桜風堂ものがたり」に続く、奇跡のような物語です。前巻「桜風堂書店」で長年勤めた書店を辞めることとなった青年は田舎町の小さな書店に勤めています。青年とこの桜風堂書店をとりまく人々の物語は、旧暦のクリスマス、「星祭り」の日。この田舎町に明かりを灯すのです。町の書店と本に対する愛着と、この本の作者、村山早紀さんのあたたかいまなざしが深く感じられます。

現在、書店の数は年々減少しています。そして、「星をつなぐ手」(下)登場するのは「桜風堂書店」に

も影を落とします。それは物語の中でも根本的に解決することはありませんが、希望を感じさせるような、前向きな描き方をされているところに村山さんらしさが表れていると思います。

「ほんとうに、綺麗だなあ」

この本のラスト、「星祭り」の日の主人公の一整のセリフです。冬の夜、星々の輝きと小さな明かりが幻想的に描かれます。表紙や裏表紙も、その美しい雰囲気表現されていますので、ぜひ手に取って見てほしいと思います。

ご存知の方も多いと思いますが、村山さんの本にはしばしば「風早の町」が登場します。この本も「風早の町」とつながっていて、他の本とのかわりを探すのも村山さんの本の楽しみ方の一つだと思えます。「星をつなぐ手」という題名は、星をつな

いで星座が表れるように、人々が縁をつないで何かを残そうとすることなのではないかと思えました。心あたたまるこの本は、寒い冬にぜひ読んでほしい物語です。ある書店員と、田舎町の書店に訪れた、人々の縁がなせる優しい物語を味わってみませんか。

『星をつなぐ手 桜風堂ものがたり2』

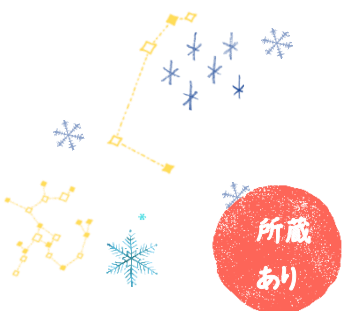
村山早紀著 PHP研究所

913.6/M 70168808

『桜風堂ものがたり』

村山早紀著 PHP研究所

916.3/M 70152753



特集

冬

と

クリスマス・キャロル

1年10組 一期崎茉依

この小説は1843年イギリスの作家チャールズ・ディケンズにより刊行されました。絵本やコミック、映画化、舞台化などもされているほど、有名なクリスマス文学です。

この小説は、ケチで嫌われ者の老人スクルージの元に三人の幽霊が現れるという物語です。最初に現れた幽霊は、「過去のクリスマス」の幽霊です。この幽霊はスクルージの手を取り、彼が忘れていた過去を共に旅します。

次に現れた幽霊は、「現在のクリスマス」の幽霊です。この幽霊はスクルージに衣の端を掴ませて、至る所で祝われているクリスマスを旅します。

最後に現れた幽霊は「未来

のクリスマス」の幽霊です。この幽霊はスクルージと共に、死んだ人の噂話をしている人たちの姿を見せました。

そしてスクルージが目覚めますと、クリスマスの朝になっていました。ケチで嫌われ者だったスクルージは一晩のうちに現れた3人の幽霊により、心を入れ替え、誰からも愛されるよき人として、ロンドンで知られるようになる、という物語になっています。

今年のクリスマスは、スクルージのように、過去・現在・未来と、自分自身を見つめ返してみてはいかがでしょうか。

『クリスマス・キャロル』
チャールズ・ディケンズ著

井原慶一郎訳 春風社

933/D 70140972

所蔵あり

「冬」のうた

2年2組 若林香里

みなさんは「冬の風物詩」と聞いてまず最初に何を思い浮かべますか。私は「クリスマス」が真っ先に思い浮かびました。そこで、クリスマスにちなんだ名作——「クリスマス・キャロル」を紹介します。

人情のかけらもない並はずれた守銭奴で知られる主人公スクルージは、あるクリスマス・イヴの夜、7年前に死んだ盟友マーリーの亡霊と対面します。マーリーの亡霊はスクルージに運命を変えるためにこうして会いにきて、3人の精霊と会ってほしいといいます。スクルージはマーリーの予言通りに3人の精霊に導かれて、自らの辛い過去と対面し、クリスマスを祝う貧しく心清らかな人々の姿を見

せられます。それはスクルージが忘れていたこと、思い出しにくいこと、見たくないことばかりでした。目の前に現れる光景に心を揺さぶられ、疲れ切ったスクルージは、自分の未来を知り衝撃を受けます。

私がこの本を読んで特に印象に残った言葉は「世の中には、幸せを感じることに、喜びを与えられることがいくらでもありませんよ。金儲けになるとは言いませんがね」です。このセリフから、お金ばかりにとらわれずに、小さな幸せや喜びを与え感じられるような人生を送りたいと思えました。

結末がどうなるか気になった方はぜひ読んでみて下さい。

『クリスマス・キャロル』
チャールズ・ディケンズ著・池
央訳 光文社古典新訳文庫

933/D 78062917

所蔵あり

+ プラス α アルファ

特集からもう少し紹介
(すべて図書館にありません)

『百貨の魔法』

村山早紀著 ポプラ社
913.6/7 70161878

舞台は桜風堂シリーズにも登場する百貨店。書店同様、百貨店をとりまく状況も決して明るいものではありません。そんなシビアな現実も織り込みつつ、優しさを失わない、村山さんのストーリーテリングが光る現代のお伽噺です。

『A Christmas carol』

Charles Dickens adapted
by David Hill
Pearson Education in association with Penguin
937/P 68015613

今回2名の方からおすすめされた「クリスマス・キャロル」の洋書版です。要約されているので、さくっと読めちゃいます。この冬休みに英語にチャレンジしてみては？

『オリヴァー・ツイスト』

チャールズ・ディケンズ著
新潮文庫
933/D 78085459

『クリスマス・キャロル』の作者、ディケンズの世界です。主人公のオリヴァー君がひたすら運命に揉まれる話ですが、二転三転する展開がなんともスリリング。何度も映像化されているので、そちらと併せて楽しむのもオススメです。

『名作に描かれたクリスマス』

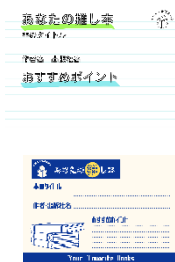
若林ひとみ著 岩波書店
902.09/w 70073823

印象的なクリスマスシーンの描かれている名作を紹介しながら、クリスマスにまつわる歴史や文化を解説しています。クリスマスシーズンに読む本をお探しの方は一読あれ。同じ著者の『クリスマス文化史』もオススメです。

『12月25日の怪物：謎に満ちた「サンタクロース」の真像を追いかけて』

高橋大輔著 草思社
386/T 70120797

聖ニコラスからなまげまで、赤い服のあのひとを追いかけて、文字通りの東奔西走。物語を旅する探検家の異色の旅行記です。



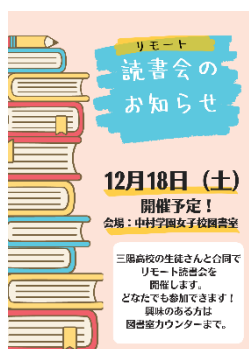
図書係の推し本

高校一年生の図書係の“推し本”（お薦めの本）を紹介、展示しています。早速、紹介していただいた本達が連日貸出され、図書室としては嬉しいかぎりです。力作揃いのPOPもぜひご覧ください。

合同読書会を開催します

12月18日（土）に中村三陽高校との合同読書会を開催します。テーマ本は尻良ゆうさんの『滅びの前のシャングリラ』です。本屋大賞にノミネートされたこの本を、参加者にはプレゼント！

まだまだ募集を受け付けておりますので、興味のある方はぜひ図書室カウンターに声をかけてください。



冬休み前長期貸出のお知らせ

— 貸出冊数が3冊から **5** 冊に —

- 12月第3週より開始予定
- 返却日 1/11(火)
- 感想カード配布

- 感想カード（S）で“何だかよいもの”をプレゼント。
- 感想カード（L）で“もっと良いもの”プレゼント。

この機会にたくさん読もう！！

冬ごもり、巣ごもりに読書を！

年末年始の開館予定

12月 図書館開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
11/28	11/29	11/30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18 終業式
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1/1 元日
1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8

休館日 9:00-20:00 9:00-17:00

開館日時は変わることがあります。その時はお知らせを出します。
 生徒の皆さんは、学校の決まり(自習時間など)を守るようお願いいたします。



今年クリスマスまで開館
しています。
来年は1月6日から開館し
ます

※開館時間は変わることがあります。変わるときは図書室内外にお知らせを出します。



図書部部員募集！

毎週火曜日昼休み図書室にて活動中
 主な活動：「ミモピア」作成、図書室内の
 展示コーナー作り、他校との交流（ビブリオ
 バトル、読書会など）、選書、文化祭ではブッ
 クカフェ などなど

他の部との兼部もOK！

編集後記

今年最後の「ミモピア」をお届けいたします。

2021年も、もう残りわずかとなりました。今年に入ってからゆっくと、「普通」が戻ってきたように感じます。来年の冬は窓を閉めて生活ができるといいな……！と、換気の度に思いますが、来年の事を話せば鬼が笑うというもの。オミクロン株の感染も拡がりはじめ、まだまだ安心はできませんね。

「ニューノーマル」と言わずとも、春からは、がらりと生活が変わる方も多いことでしょう。今年はお花見ができなかった分、より多くの方の上に桜が咲くことを願っています。

終わりに、お忙しい中で原稿をお寄せいただいた永松先生、図書部の皆さん、また、篠原先生をはじめご協力いただいたすべての皆様に、お礼申し上げます。どうもありがとうございました。

皆様にとって来年がよい年でありますように。